

生活

seikatsu@asahi.com



2012年(平成24年)
12月7日
金曜日
大雪

天気	6	9	12	15	18	21(時)
福岡	☁	☁	☁	☁	☁	90 11
北九州	☁	☁	☁	☁	☁	100 10
山口	☁	☁	☁	☁	☁	100 9
大分	☁	☁	☁	☁	☁	60 11
佐賀	☁	☁	☁	☁	☁	90 10
鹿児島	☁	☁	☁	☁	☁	70 13
那覇	☁	☁	☁	☁	☁	0 21
大阪	☁	☁	☁	☁	☁	60 8
東京	☁	☁	☁	☁	☁	10 10

朝日新聞西部本社 発行所:〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1
電話:093-563-1131 www.asahi.com
福岡本部 〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1 電話:092-411-1131

患者を生きる

2057 免疫と病気

免疫の異常で、皮膚や粘膜に水ぶくれやただれができる「尋常性天疱瘡」と診断された福岡県の山口修さん(55)は、久留米大病院の皮膚科に入院しながら、ステロイドや免疫抑制剤による治療を始めた。

2002年6月、今度は口の粘膜がはがれた。食べ物が触れると激痛が走る状態だったが、「きちんと食べて、栄養もとらないと治らない」と自分に言い聞かせた。食事のために表面麻酔薬を口に含み、まひさせながら食べた。

歯科医という職業柄、診療中はマスクやめがねが欠かせない。これらが触れて刺激を受ける鼻やほお、耳の裏などの皮膚が特にただれやすい。

ある日、顔のただれが化膿し、膿が出始めた。ステロイドなどで免疫力が弱くなっており、細菌に感染した。ガーゼなどをはり合わせて加工し、顔の膿がたれないように工夫した。昼休みには近くの内科クリニックで抗生剤の点滴を受けた。

ウイルスが神経を攻撃する帯状疱疹も経験した。神経を針で

栄養とるため麻酔し食事

刺されたような激痛が、下の前歯から始まり、ほおや耳、目のまわりへ広がった。

全身の痛みを軽くする「作戦」を常に考えていた。

刺激の少ない赤ちゃん用のシャンプーやボディソープで洗うとシャワーが少し楽になる。縫い目やタグが皮膚に当たると新たな水ぶくれができる。シャツや下着は裏返しにして、でこぼこが少ない状態で着た。

靴下の締めつけ部が痛いので、ゴム糸を切って「ルーズソックス」のようにした。顔の状

天疱瘡④



鼻や耳をガーゼなどで保護しながら診療に当たった(山口修さん提供)

態を見るため、手鏡をバッグに入れており、「まるで女子高生

みたい」と家族で笑った。

数カ月たつうちに、症状は次第に和らいでいった。病気の原因となる「抗体」を血液検査で調べながら、毎日のむステロイドの量を慎重に減らしていった。ところが、最初の量の半分以下になったとき、症状が再び悪化した。

ステロイドの量を少し増やしただけでは効果は見られず、結局、のみ始めのころの「大量投与」の量に戻された。

「なんじゃこれは。また最初からかい……」。治療開始から1年半の間に、このような「再発」を3度、繰り返した。

■ご意見・体験は、<メール> iryo-k@asahi.comへ。

医療サイト・アピタルで、3カ月分のバックナンバーが見られます。

アピタル 検索